

災 害 の 概 況

(平成19 年)



(平成19年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練)

鳥 取 県 西 部 広 域 行 政 管 理 組 合
消 防 局

目 次

(ページ数)

災害概況のまとめ	1
I 火災概況	2
1 出火状況	2
2 出火原因	2
3 死者、負傷者	3
別図Ⅰ－ 1 火災件数の推移	3
別図Ⅰ－ 2 火災種別ごとの件数と構成比率	3
別図Ⅰ－ 3 月別の火災件数	4
別図Ⅰ－ 4 市町村別火災件数の構成比率	4
別図Ⅰ－ 5 経過別死者発生状況	5
別図Ⅰ－ 6 経過別負傷者発生状況	5
別表Ⅰ－ 1 平成19年の火災の概況	6
別表Ⅰ－ 2 月別火災発生状況	7
別表Ⅰ－ 3 市町村別火災状況	8
別表Ⅰ－ 4 出火原因別火災発生概況	9
別表Ⅰ－ 5 過去10年間の火災発生状況	10
II 救急概況	11
1 救急出場件数、救急搬送状況	11
2 市町村別救急活動状況	11
3 傷病程度別搬送状況	11
4 年齢別搬送状況	11
5 署所別救急活動状況	11
6 月別救急活動状況	11
7 現場到着所要時間、収容所要時間	11
8 応急手当実施状況	11
9 高度救命処置状況	11
10 救急講習件数の推移	11
別図Ⅱ－ 1 事故種別救急出場状況	12
別図Ⅱ－ 2 事故種別救急搬送状況	12
別図Ⅱ－ 3 過去5年間の救急推移	13
別図Ⅱ－ 4 市町村別救急活動状況	13
別図Ⅱ－ 5 傷病程度別搬送状況	14
別図Ⅱ－ 6 年齢別搬送状況	14
別図Ⅱ－ 7 署所別救急活動状況	15
別図Ⅱ－ 8 月別救急活動状況	15

別図Ⅱ－ 9	現場到着所要時間	16
別図Ⅱ－ 10	収容所要時間	16
別図Ⅱ－ 11	応急手当実施状況	17
別図Ⅱ－ 12	高度救命処置状況	17
別図Ⅱ－ 13	過去5年間の救急講習件数推移	18
別図Ⅱ－ 14	過去5年間の救急講習人員推移	18
別図Ⅱ－ 15	応急手当指導員・普及員の養成	18
Ⅲ	救助概況	19
1	事故種別救助出動状況	19
2	事故種別救助活動状況	19
3	事故種別救助人員状況	19
4	救助事故の死傷程度	19
5	署所別救助活動状況	19
別図Ⅲ－ 1	事故種別救助出動状況	19
別図Ⅲ－ 2	事故種別救助活動状況	20
別図Ⅲ－ 3	事故種別救助人員状況	20
別図Ⅲ－ 4	救助事故の死傷程度	21
別図Ⅲ－ 5	署所別救助活動状況	21
Ⅳ	119番着信概況	22
1	概況	22
2	月別の着信状況	22
3	時間帯別119番通報の着信状況	22
4	携帯電話からの着信状況	22
5	電話種別による通報状況	22
別表Ⅳ－ 1	119番着信件数の推移	23
別表Ⅳ－ 2	月別119番着信状況	23
別表Ⅳ－ 3	電話種別による119番着信件数の推移	24
別表Ⅳ－ 4	電話種別毎の通報状況	24
別表Ⅳ－ 5	携帯電話からの着信状況	24
別表Ⅳ－ 6	携帯電話の消防機関別転送状況	25
別図Ⅳ－ 1	通報内容別着信状況	26
別図Ⅳ－ 2	月別着信状況	26
別図Ⅳ－ 3	電話種別毎の着信比率の推移	27
別図Ⅳ－ 4	時間帯別着信件数の推移	27

災害概況のまとめ

(平成19年1月～12月)

I 火災概況

平成19年中の火災件数は110件で、前年に比べ2件少なくなっています。特に、建物火災は昨年より21件少ない65件で、これに伴い焼損面積、損害額とも大幅に減少しています。

死者は6人で、前年より1人多くなっています。そのうち、65歳以上の高齢者が半数(3人)であったことから、今後は住宅用防災機器の普及など、従来にも増して高齢化社会に備えた防火対策が急務であると考えます。

出火原因については、昨年に引き続き「放火・放火の疑い」が第1位を占めています。これは枯草への放火火災が多発したことによるもので、このことから、今後各家庭はもちろんのこと地域全体で放火に対する警戒をより強めていくことが重要な課題となっています。

第2位の「こんろ」については、使用中にその場を離れたことにより発生しているケースが多いことから、「使用中はその場を離れない、離れるときは一旦火を消す」といった習慣を身につけることが肝要です。

II 救急概況

平成19年中の救急出場件数は8,800件で、前年に比べ325件少なくなっています。救急搬送人員も同様に187人減の8,286人でした。

平成13年に減少して以来2回目となりました。

しかしながら、搬送人員に占める高齢者の割合は3ポイント増加しており、高齢化率の高い西部圏域では、この傾向は今後も続くものと推測されます。

事故種別の出場件数では、急病、一般負傷、火災の減少が大きく、その他の種別は微減微増でした。

心肺停止傷病者の内7名の方が社会復帰を果たしています。今後も「救える命」を確実に救うため、住民・救急・医療との一層の連携を図る必要があります。

III 救助概況

平成18年中の救助出動件数157件、救助人員85人でした。出動件数で最も多いのは交通事故の86件で、全体の54.8%を占め、次いで火災、その他の事故の順になっています。

特に近年では地震、台風などの自然災害が大規模化して多大な被害を生じていることから、あらゆる災害に対応するためのより高度な救助資機材の整備を推進する必要があります。

IV 119番着信状況概要

本年中の総着信件数は12,163件でした。現在、固定電話、携帯電話、IP電話の3種類の電話から119番着信があります。IP電話での着信件数は17年中67件、18年中310件、19年中565件、と増加傾向にあります。又、年々増加していた携帯電話による着信件数は、横ばい傾向となっています。

また、19年11月から携帯電話の位置情報通知システムの運用を開始しております。このシステムは携帯電話からの119番通報時に発信された位置情報を取り込むものですが、今後正確な位置情報を発信できるGPS機能付き携帯電話の普及率向上に伴いその機能が十分に発揮されるものと考えています。

I 火災概況

(平成19年1月～12月)

1 出火状況

(1) 火災件数

平成19年中の火災件数は110件で、前年に比べ2件(2%)少なくなっています。

(別表I-1. 別表I-5. 別図I-1 参照)

(2) 火災種別

種別ごとの構成比をみると、建物火災が全体の59%を占め、次いでその他火災28%、車両火災8%、林野火災5%の順となっています。

(別表I-1. 別図I-2 参照)

(3) 月別

月別の火災件数をみると、5月が19件で最も多く、次いで4月の16件、3月の15件、そして2月と12月の11件と続いています。

種別ごとの発生状況をみると、建物火災は5月と12月(11件)が最も多く、林野火災とその他火災は2月から5月にかけて多く発生しています。

死者は、すべて1月から4月の間に発生しています。

また、負傷者は1月から5月にかけて多く発生しています。

(別表I-2. 別図I-3 参照)

(4) 市町村別

市町村別の火災件数をみると市部(米子市・境港市)が全体の73%を占め、町村部では大山町が他町と比べ件数が多くなっています。(日吉津村は、0件)

(別表I-3. 別図I-4 参照)

(5) 損害額

損害額は約9,291万円で、前年(2億8,802万円)に比べ、1億9,511万円少なくなっています。

火災種別ごとの損害額をみると、建物火災によるものが全体の97%を占めています。

また、月別では、3月が最も多くなっています。

(別表I-1. 別表I-2 参照)

2 出火原因

出火原因の第1位は「放火(疑い含む)」で24件、次いで「こんろ」の11件、更に「たき火」9件、「火入れ」8件の順となっています。

(別表I-4 参照)

3 死者・負傷者

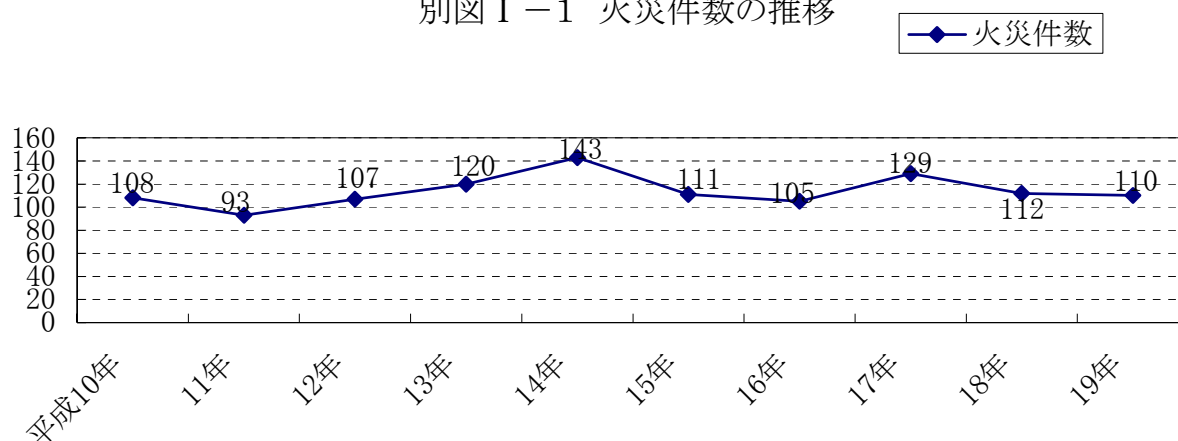
死者数は6人で、前年（5人）より1人多くなっていますが、逆に、負傷者は5人少ない14人となっています。

死者の発生経過をみると、6人中2人が「逃げ遅れ」によるものです。

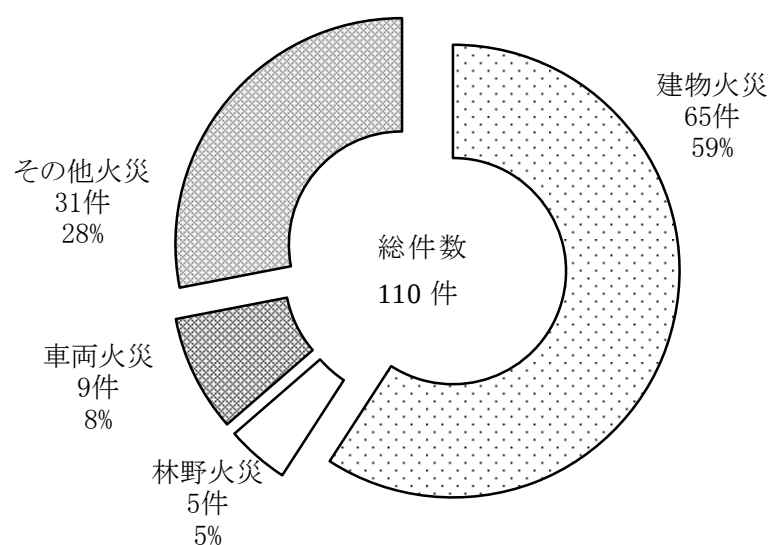
負傷者は、消火しようとした際に多く発生しています。

（別表Ⅰ－1．別図Ⅰ－5．別図Ⅰ－6 参照）

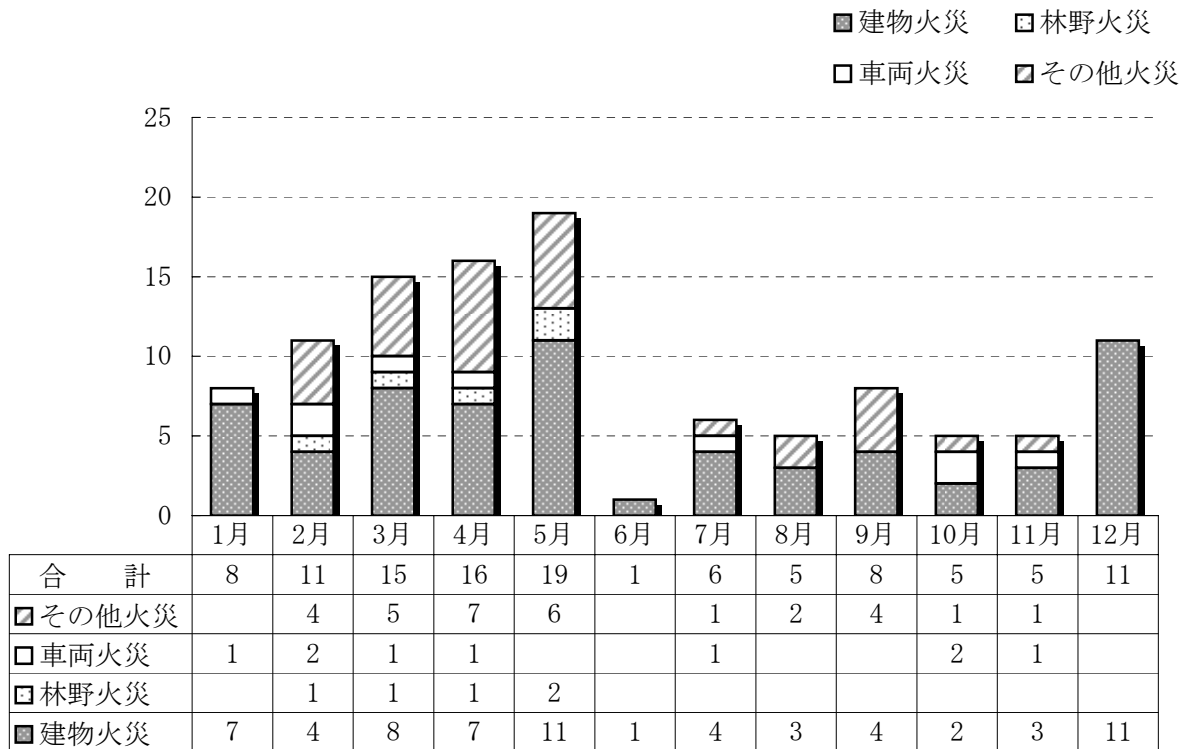
別図Ⅰ－1 火災件数の推移



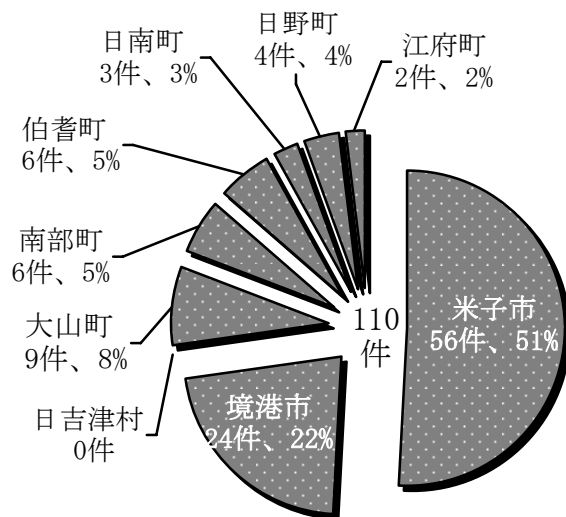
別図Ⅰ－2 火災種別ごとの件数と構成比率



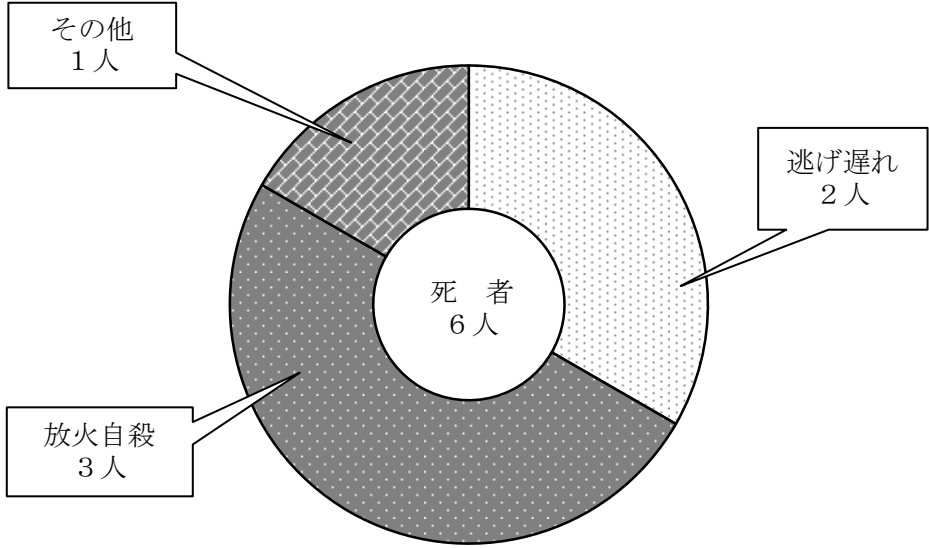
別図 I - 3 月別の火災件数



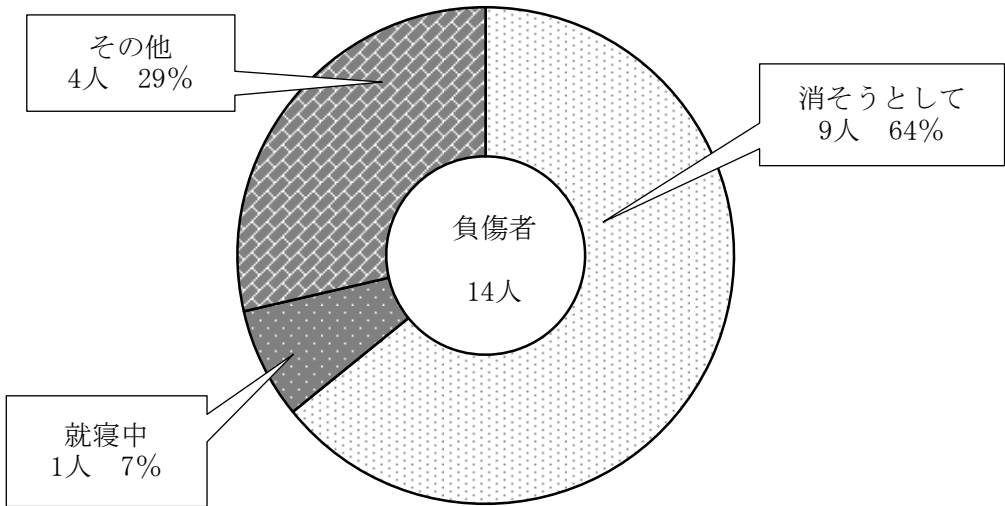
別図 I - 4 市町村別火災件数の構成比率



別図 I - 5 経過別死者発生状況



別図 I - 6 経過別負傷者発生状況



別表 I - 1 平成 19 年の火災の概況

区 分		平成 19 年 A	平成 18 年 B	増 減 C (A-B)	増 減 率 C/B (%)
火 災 件 数 (件)		1 1 0 (100%)	1 1 2 (100%)	- 2	-2%
建 物 火 災		6 5 (59%)	8 6 (76%)	- 2 1	-24%
林 野 火 災		5 (5%)	1 (1%)	4	400%
車 両 火 災		9 (8%)	1 1 (10%)	- 2	-18%
船 舶 火 災		()	()		
そ の 他 火 災		3 1 (28%)	1 4 (13%)	1 7	121%
焼 損 棟 数 (棟)		7 4 (100%)	1 3 7 (100%)	- 6 3	-46%
全 焼		1 7 (23%)	2 8 (20%)	- 1 1	-39%
半 焼		6 (8%)	1 3 (10%)	- 7	-54%
部 分 焼		2 3 (31%)	5 5 (40%)	- 3 2	-58%
ぼ や		2 8 (38%)	4 1 (30%)	- 1 3	-32%
罹災世帯数(世帯)		3 3 (100%)	7 8 (100%)	- 4 5	-58%
全 損		7 (21%)	1 8 (23%)	- 1 1	-61%
半 損		5 (15%)	9 (12%)	- 4	-44%
小 損		2 1 (64%)	5 1 (65%)	- 3 0	-59%
罹 災 人 員 (人)		9 1	2 3 8	- 1 4 7	-62%
焼 損 面 積	建物(㎡)	2, 3 0 5	5, 7 2 1	- 3, 4 1 6	-60%
	林野(a)	4 8		4 8	-
損 害 額 (千 円)		9 2, 9 1 3	2 8 8, 0 2 4	- 1 9 5, 1 1 1	-68%
建 物 火 災		8 9, 8 5 6	2 8 4, 6 5 9	- 1 9 4, 8 0 3	-68%
林 野 火 災		4 2 7		4 2 7	-
車 両 火 災		2, 3 2 4	2, 5 7 6	- 2 5 2	-10%
船 舶 火 災					-
そ の 他 火 災		3 0 6	7 8 9	- 4 8 3	-61%
1 件当り り損害額 (千円)	火災全体	8 4 5	2, 5 7 2	- 1, 7 2 7	-67%
	建物火災	1, 3 8 2	3, 3 1 0	- 1, 9 2 8	-58%
1 件当り 損害面積	建物(㎡)	3 5	6 7	- 3 2	-48%
	林野(a)	1 0		1 0	-
死 者 (人)		6	5	1	20%
負 傷 者 (人)		1 4	1 9	- 5	-26%
出火率(人口 1 万人当り)		4. 4 4	4. 4 8	- 0. 0 4	-1%

備考 () 内は構成比を示す。なお、損害額については概数

別表 I - 2 月別火災発生状況

	合 計		建物火災			林野火災			車両火災		船舶火災		その他火災			焼損棟数				り災世帯				死 傷 者 数	3 0 日 以 内 死 亡	
	件 数	損 害 額 (千円)	件 数	損 害 額 (千円)	焼 損 面 積 m ²	件 数	損 害 額 (千円)	焼 損 面 積 a	件 数	損 害 額 (千円)	件 数	損 害 額 (千円)	件 数	損 害 額 (千円)	合 計	全 焼	半 焼	部 分	ば 焼 や	合 計	全 損	半 損	小 損			り 災 人 員
1 月	8	27,853	7	27,122	970				1	731					10	5	1	1	3	5	3		2	15	2	1
2 月	11	863	4	476	40	1		7	2	387			4		4	1		2	1	1			1	4	1	2
3 月	15	32,611	8	32,551	401	1		17	1	60			5		8	2	2	3	1	6	1	3	2	17	2	2
4 月	16	5,718	7	4,718	492	1	399	18	1	601			7		11	5	1	1	4	3	2		1	9	1	2
5 月	19	5,450	11	5,122	163	2	28	6					6	300	12	2	1	7	2	5			5	10		4
6 月	1	6,093	1	6,093	155										2	1		1		2	1		1	5		
7 月	6	10,661	4	10,261	6				1	400			1		4			2	2	2		1	1	3	1	
8 月	5	41	3	41									2		3			3		1			1	5		
9 月	8	1,759	4	1,759	28								4		4		1		3	1		1		1		
10 月	5	235	2	121					2	114			1		2				2	1			1	2	1	
11 月	5	590	3	553	12				1	31			1	6	3			1	2	2			2	7		
12 月	11	1,039	11	1,039	38										11	1		2	8	4			4	13		1
合 計	110	92,913	65	89,856	2305	5	427	48	9	2,324			31	306	74	17	6	23	28	33	7	5	21	91	6	14

別表Ⅰ－3 市町村別火災状況

	火災件数					焼損面積		焼損棟数				り災世帯数			り災人員	死者	負傷者	30日以内死亡	損害額 (千円)				
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	床面積 ㎡	表面積 ㎡	林野面積 ㎡	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや						合計	全焼	半焼	小
米子市	56	37		5		14	813	46		39	6	5	10	18	18	2	4	12	43	3	6		58,440
境港市	24	8		1		15	314	27		9	2		4	3	5	2		3	15	3			4,402
日吉津村	0																						
大山町	9	5	2	1		1	1,036	12	23	11	6	1		4	4	3		1	12		2		26,285
南部町	6	3	2	1			9		18	3			2	1	1			1	4		2		83
伯耆町	6	4	1			1	47	1	7	4	1		2	1	1			1	5		1		556
日南町	3	3					21	3		3	1		1	1	1			1	3		1		210
日野町	4	3		1			20	3		3	1		2		1			1	3		1		850
江府町	2	2					45			2			2		2		1	1	6		1		2,087
合計	110	65	5	9		31	2,305	92	48	74	17	6	23	28	33	7	5	21	91	6	14		92,913

別表 I - 4 出火原因別火災発生概況

原因別	出火件数							損害額（千円）	死者負傷者	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	死者	負傷者
合計	110	65	5	9			31	92,913	6	14
たばこ	5	4		1				424		1
こんろ	11	11						7,703		4
かまど										
風呂かまど										
炉										
焼却炉	1						1	6		
ストーブ	2	2						20		1
こたつ										
ボイラー										
煙突・煙道	2	2						503		
排気管										
電気機器										
電気装置	4	1		2			1	5,722		
電灯・電話等の配線	3	3						8,376		1
内燃機関										
配線器具	3	3						678		
火あそび	3	2		1				682		3
マッチ・ライター	1	1						6		2
たき火	9	2	2				5	34		1
溶接機・切断機	2	2						54		
灯	1	1						18,152		
衝突の火花										
取灰										
火入れ	8	2	1				5	1,754		
放火	8	6					2	985	3	
放火の疑い	16	7					9	4,149		
その他	11	8		2			1	5,778		1
不明・調査中	20	8	2	3			7	37,887	3	

別表Ⅰ－5 過去10年間の火災発生状況

区 分	合 計		建物火災		林野火災			車両火災		船舶火災		その他火災		焼損棟数				罹災世帯				死 者	負 傷 者			
	件 数	損 害 額 (千円)	件 数	損 害 額 (千円)	件 数	損 害 額 (千円)	焼 損 面 積 ㎡	件 数	損 害 額 (千円)	件 数	損 害 額 (千円)	件 数	損 害 額 (千円)	合 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	合 計	全 損	半 損			小 損	罹 災 人 員 (人)	
10年	108	205,257	73	178,798	3,352	3	65	50	8	21,483			24	1,509	92	27	10	29	26	49	13	6	30	161	5	6
11年	93	404,896	61	401,903	5,393	4		319	10	1,691	2	718	16	584	94	35	7	27	25	57	19	4	34	197	5	15
12年	107	156,560	63	138,370	2,763	7		16	13	13,991	1	4,000	23	199	83	20	8	26	29	50	12	5	33	151	4	10
13年	120	232,096	63	200,616	3,416	5	5,207	199	21	21,315	1	4,500	30	458	88	26	7	29	26	55	13	5	37	195	6	11
14年	143	261,812	72	252,724	4,364	10	1,638	453	13	6,538			48	912	105	33	5	40	27	66	17	2	47	207	8	21
15年	111	145,855	73	143,834	3,875	2		6	14	1,588			22	433	99	23	11	37	28	62	17	10	35	191	9	23
16年	105	254,660	69	249,412	5,900	6	5	30	14	5,243			16		103	27	12	33	31	56	11	6	39	190	4	18
17年	129	360,219	82	349,437	8,124	5	563	136	17	9,689	1	200	24	330	160	55	19	38	48	101	39	13	49	267	10	19
18年	112	288,024	86	284,659	5,721	1			11	2,576			14	789	137	28	13	55	41	78	18	9	51	238	5	19
19年	110	92,913	65	89,856	2,305	5	427	48	9	2,324			31	306	74	17	6	23	28	33	7	5	21	91	6	14

Ⅱ 救急概況

(平成19年1月～12月)

1 救急出場件数、救急搬送状況

平成19年中の救急出場件数は18年中に比べて325件減の8,800件、搬送人員は187人減の8,286人で、ともに平成13年以来6年ぶりの減少となりました。

(別図Ⅱ－1、Ⅱ－2、Ⅱ－3参照)

2 市町村別救急活動状況

市町村別では、米子市の救急出場件数及び搬送人員がそれぞれ5,155件(58.6%)、4,820人(58.2%)と最も多く、割合は昨年より増加しています。

(別図Ⅱ－4参照)

3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が3,961人(47.8%)で最も多く、次いで軽症が2,899人(35.0%)となっています。

(別図Ⅱ－5参照)

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の老人(高齢者)が98人増加し4,585人(55.3%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ－6参照)

5 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出場件数及び搬送人員がそれぞれ3,130件(35.6%)、2,885人(34.8%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ－7参照)

6 月別救急活動状況

月別の出場件数と搬送人員では、3月がそれぞれ842件(9.6%)、784人(9.5%)で最も多く、続いて1月の798件(9.1%)、732人(8.8%)となっています。

(別図Ⅱ－8参照)

7 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は6分48秒、平均収容所要時間は32分38秒でした。

(別図Ⅱ－9、Ⅱ－10参照)

8 応急手当実施状況

心肺停止傷病者のうち家族等により応急手当を受けた人は、107人でした。

(別図Ⅱ－11参照)

9 高度救命処置状況

心肺停止傷病者242人のうち155人が救急救命士による高度救命処置を受け、そのうち15人に回復が見られました。

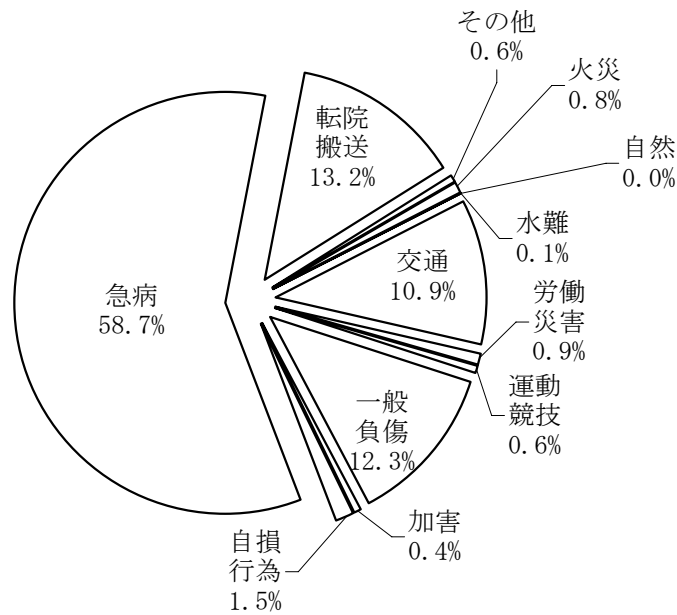
(別図Ⅱ－12参照)

10 救急講習件数の推移

西部消防局で過去5年間に実施した救急講習に、毎年10,000人以上の人が受講されています。

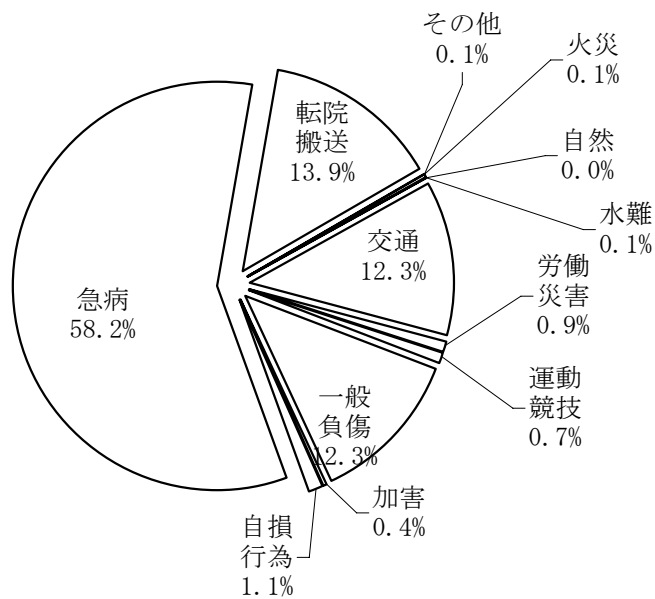
(別図Ⅱ－13、Ⅱ－14、Ⅱ－15参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出場状況



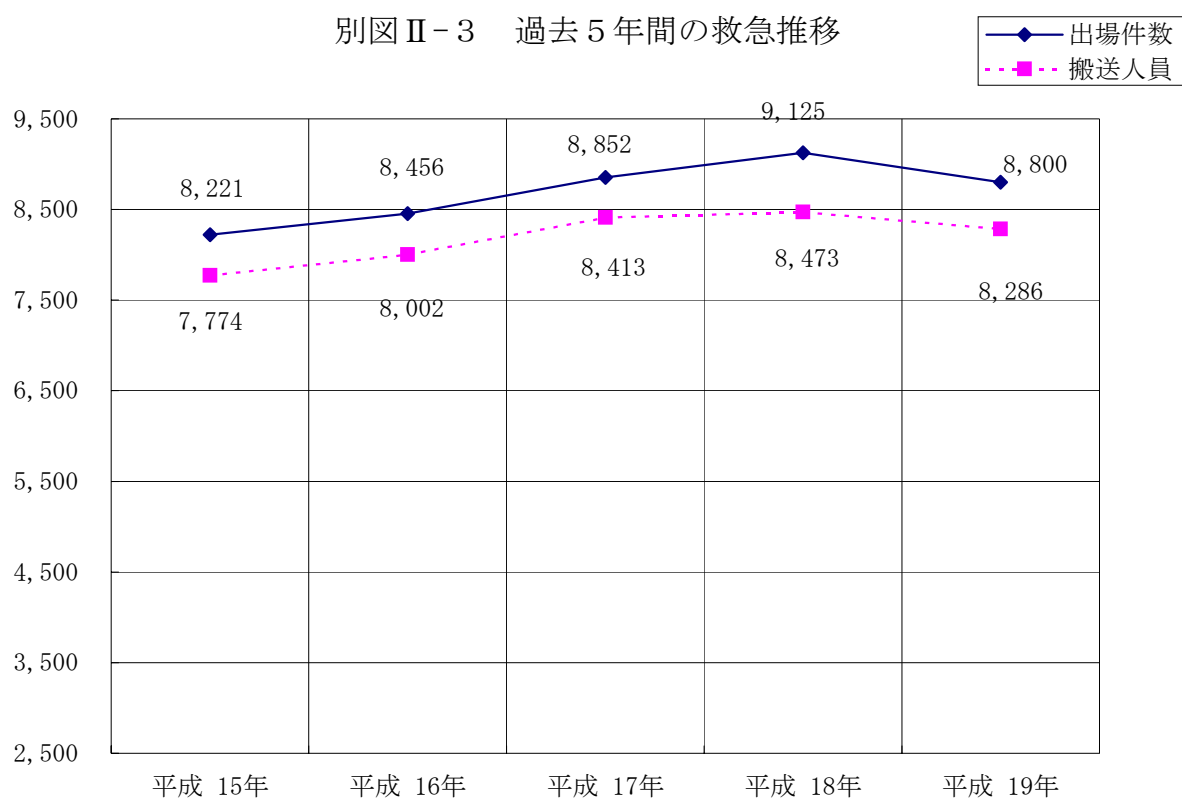
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出場件数	73	0	9	959	75	55	1,083	39	133	5,166	1,157	51	8,800

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

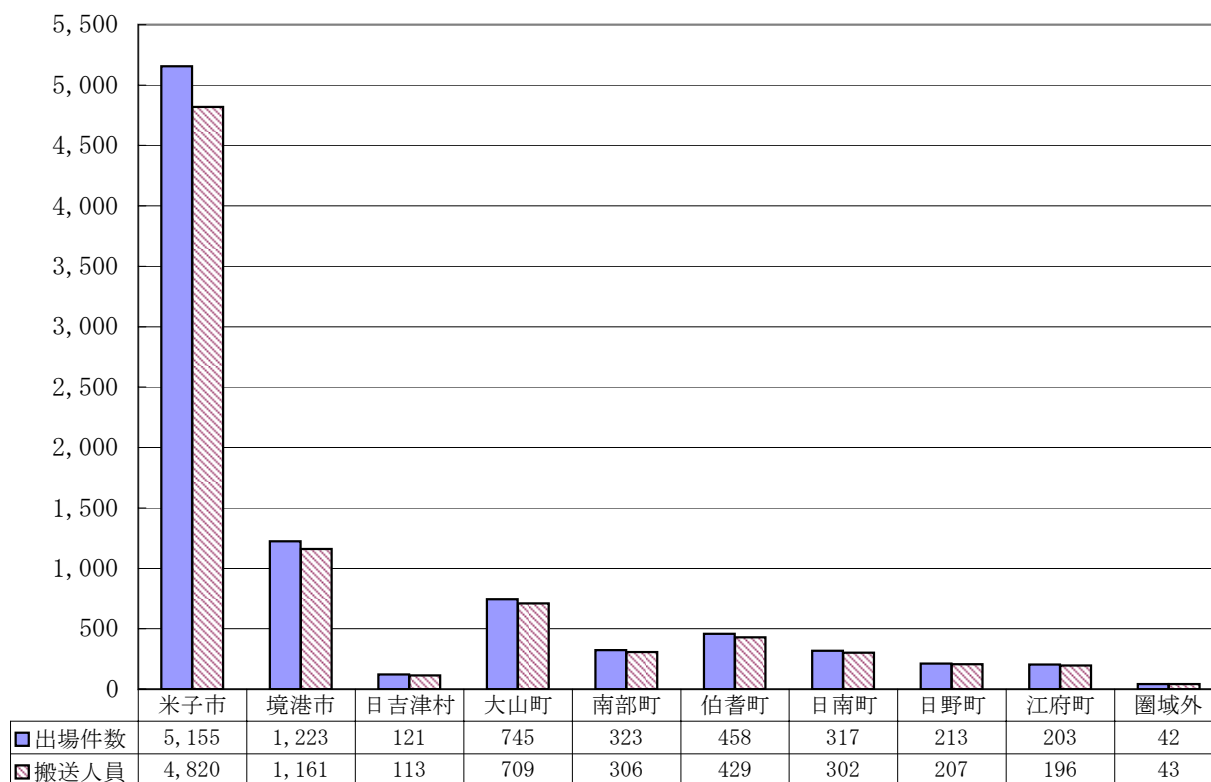


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	15	0	4	1,016	77	55	1,022	32	92	4,817	1,152	4	8,286

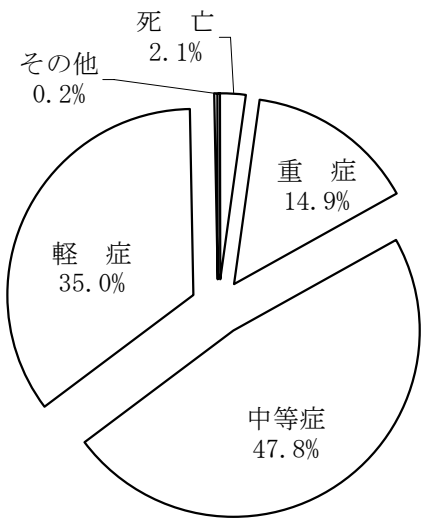
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

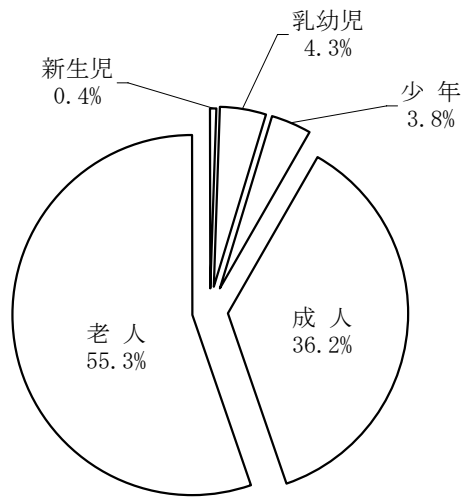


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



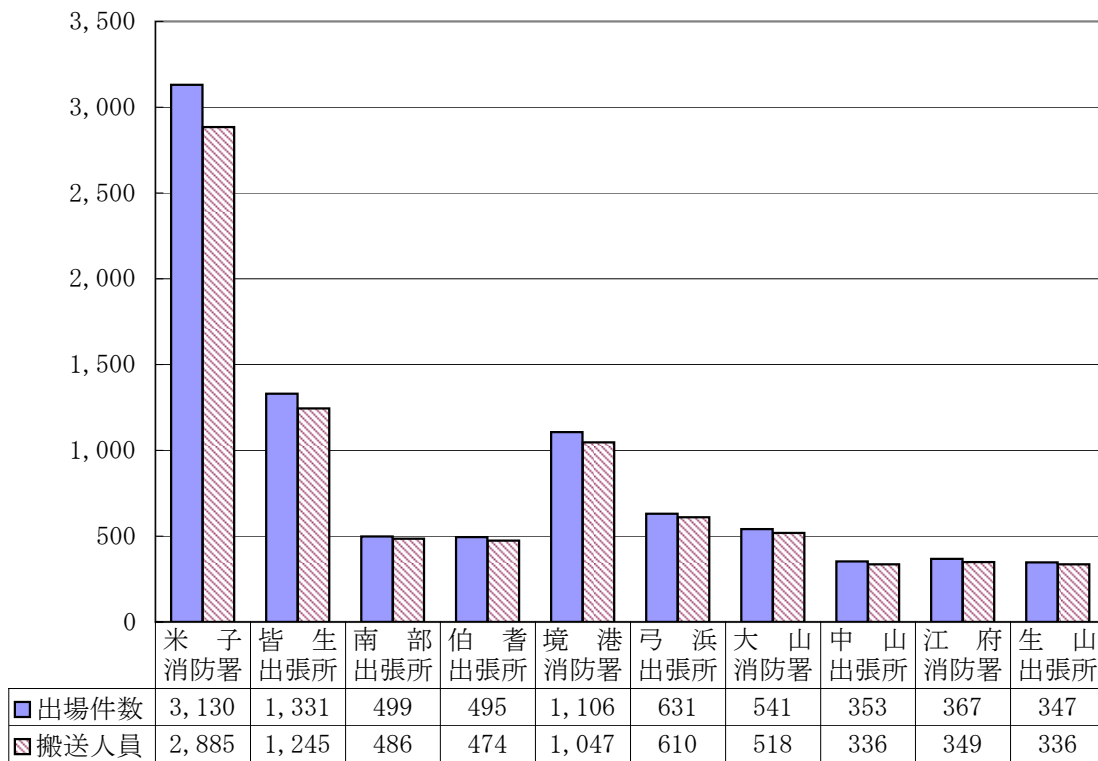
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	178	1,233	3,961	2,899	15	8,286

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

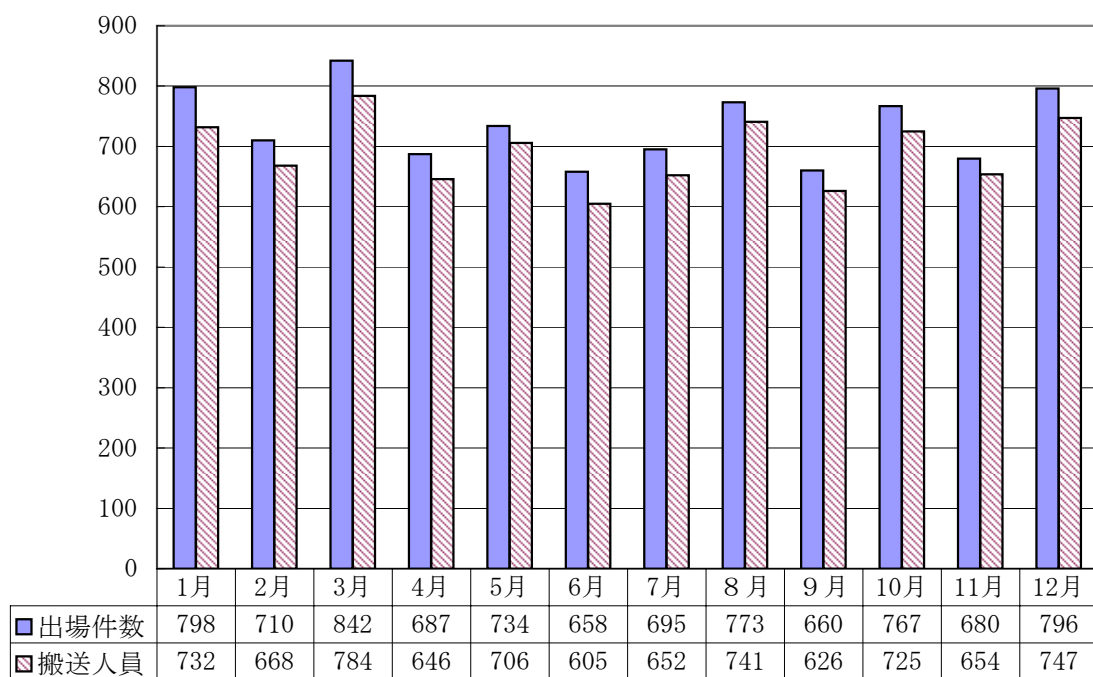


	新生児	乳幼児	少年	成人	老人	合 計
搬送人員	36	351	313	3,001	4,585	8,286

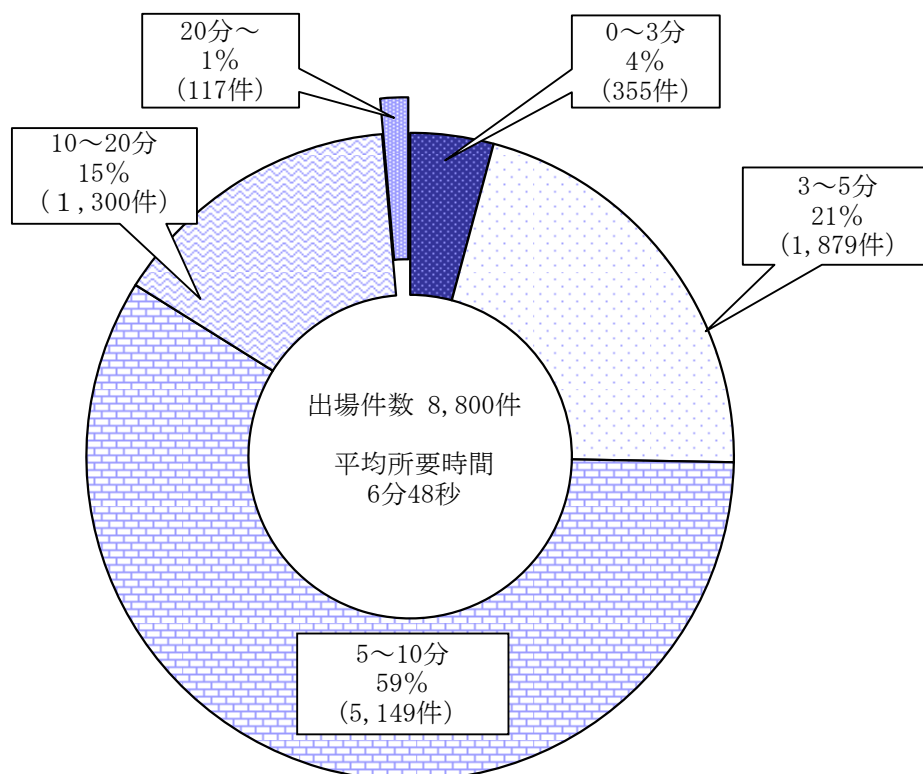
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



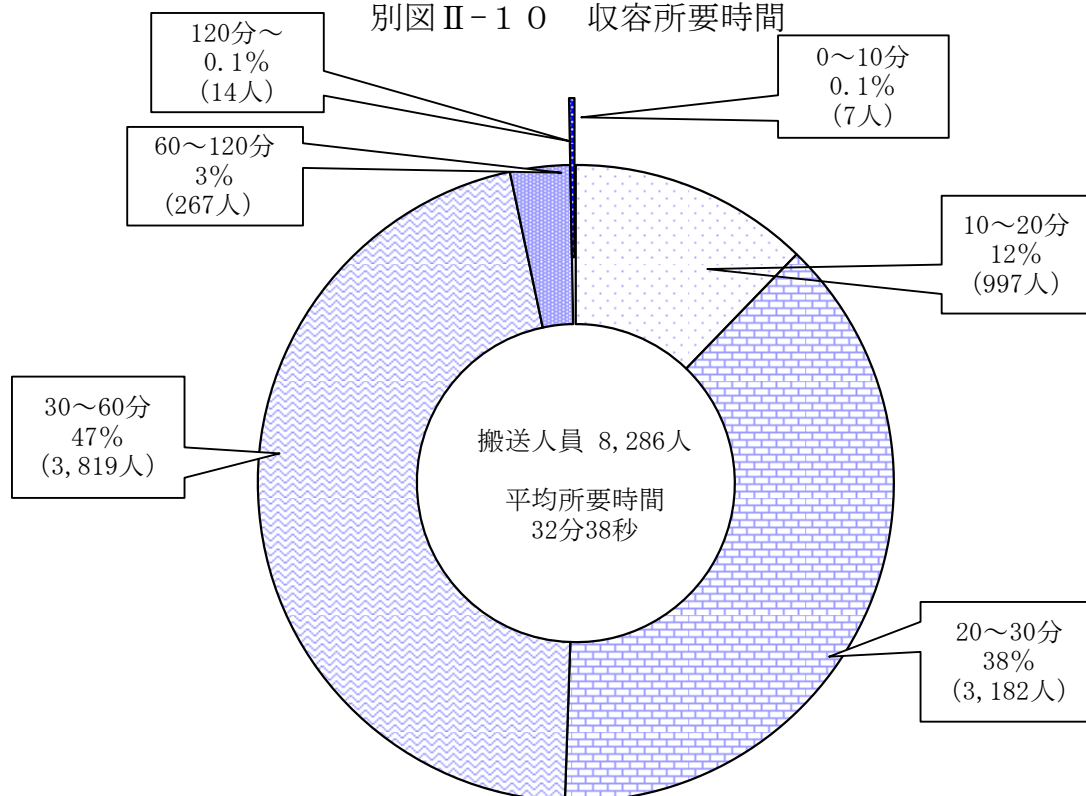
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



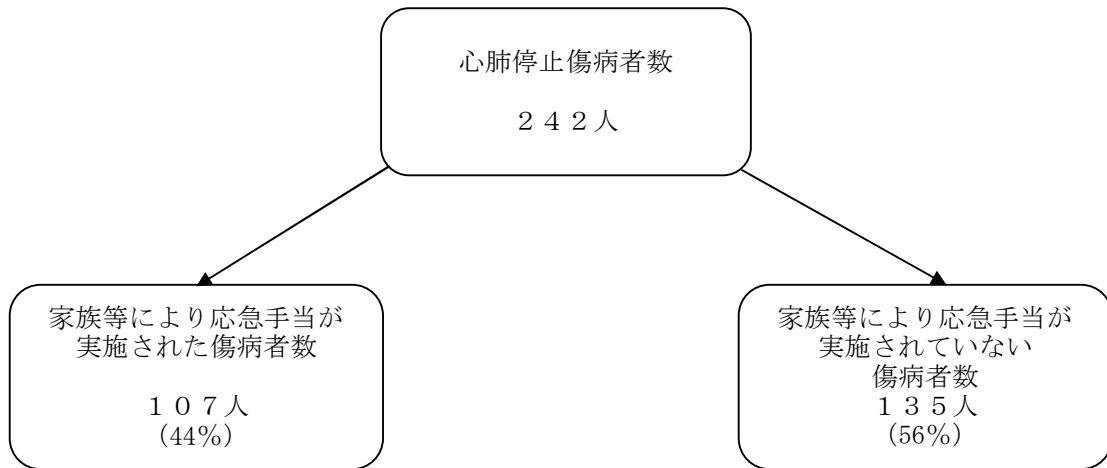
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



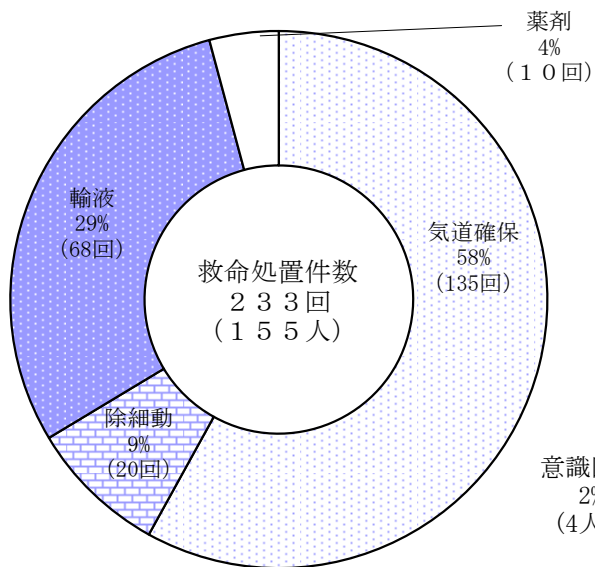
別図Ⅱ-10 収容所要時間



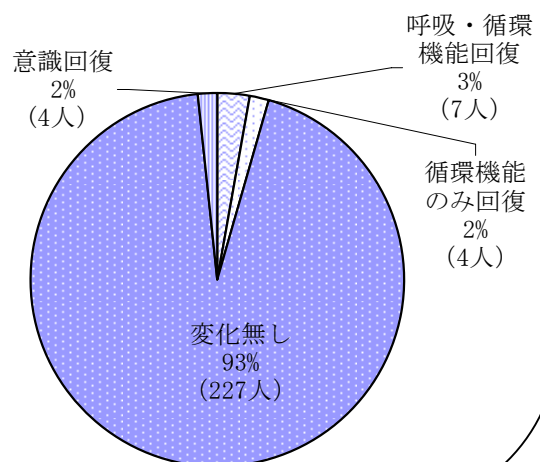
別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況



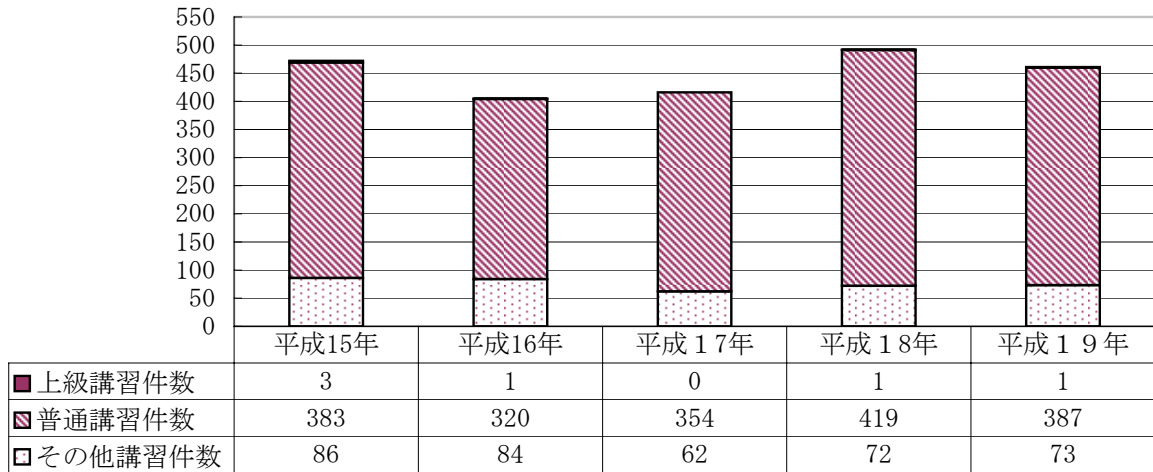
別図Ⅱ-1 2 高度救命処置状況



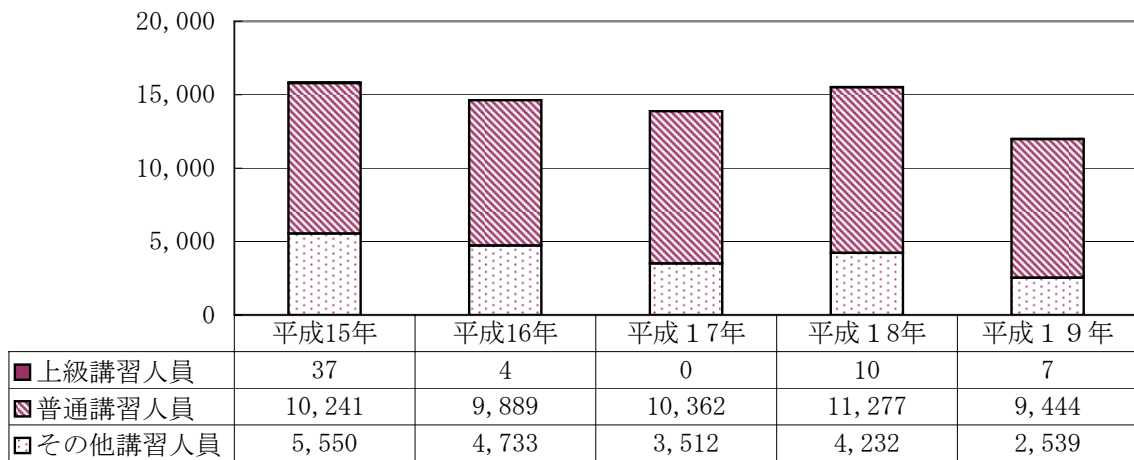
別図Ⅱ-1 3
医師引き継ぎ時の状況



別図Ⅱ－１３ 過去５年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－１４ 過去５年間の救急講習人員推移



別図Ⅱ－１５ 応急手当指導員・普及員の養成

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
応急手当指導員	7	24	0	0	11
応急手当普及員	8	0	33	12	0

Ⅲ 救助概況

(平成19年1月～12月)

1 事故種別救助出動状況

救助出動件数は157件あり、そのうち交通事故が86件(54.8%)、火災が32件(20.4%)、その他の事故が24件(15.3%)、水難事故が6件(3.8%)等となっています。

(別図Ⅲ－1 参照)

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は108件あり、そのうち交通事故が54件(50%)、火災が32件(29.6%)、その他の事故が13件(12%)となっています。

(別図Ⅲ－2 参照)

3 事故種別救助人員状況

救助された人員は85人あり、そのうち交通事故が63人(74.1%)と最も多く、その他の事故が13人(15.3%)となっています。

(別図Ⅲ－3 参照)

4 救助事故の死傷程度

救助された死傷者の程度は、中等症が37人と最も多く、次いで軽症が23人、重症が12人、死亡が11人、その他が2人となっています。

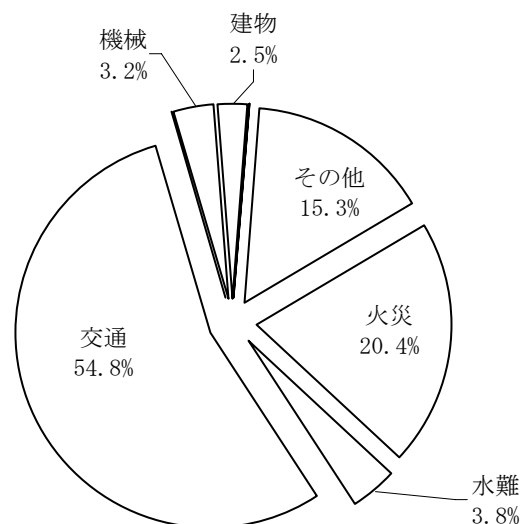
(別図Ⅲ－4 参照)

5 署別救助活動状況

署別の出場件数では、米子消防署が95件と最も多く、次いで境港消防署が26件、大山消防署が16件、江府消防署が20件となっています。

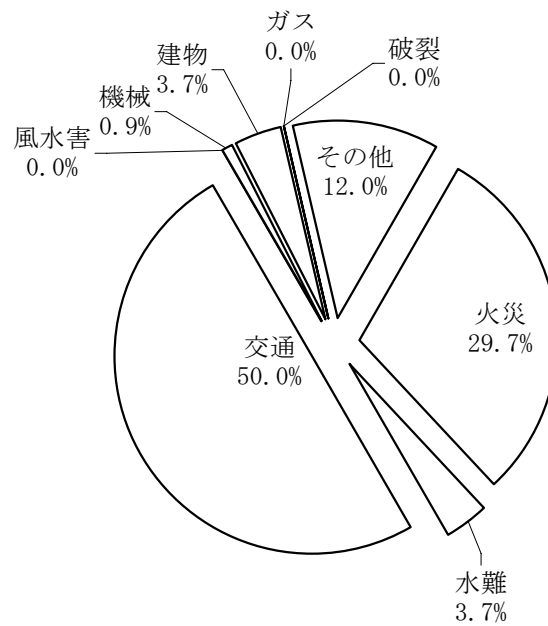
(別図Ⅲ－5 参照)

別図Ⅲ－1 事故種別救助出動状況



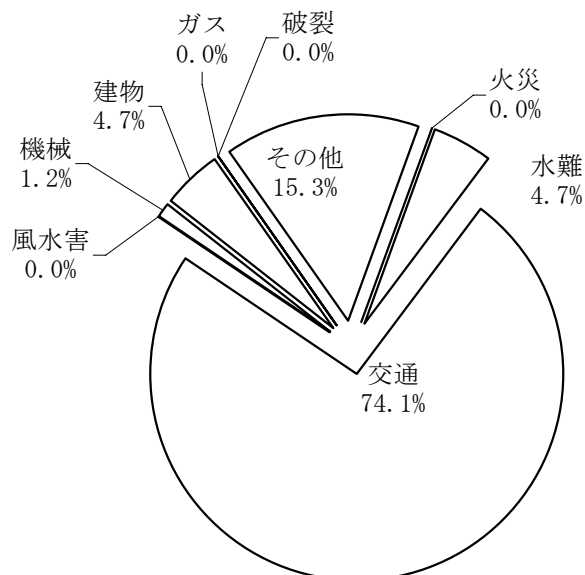
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出動件数	32	6	86	0	5	4	0	0	24	157

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



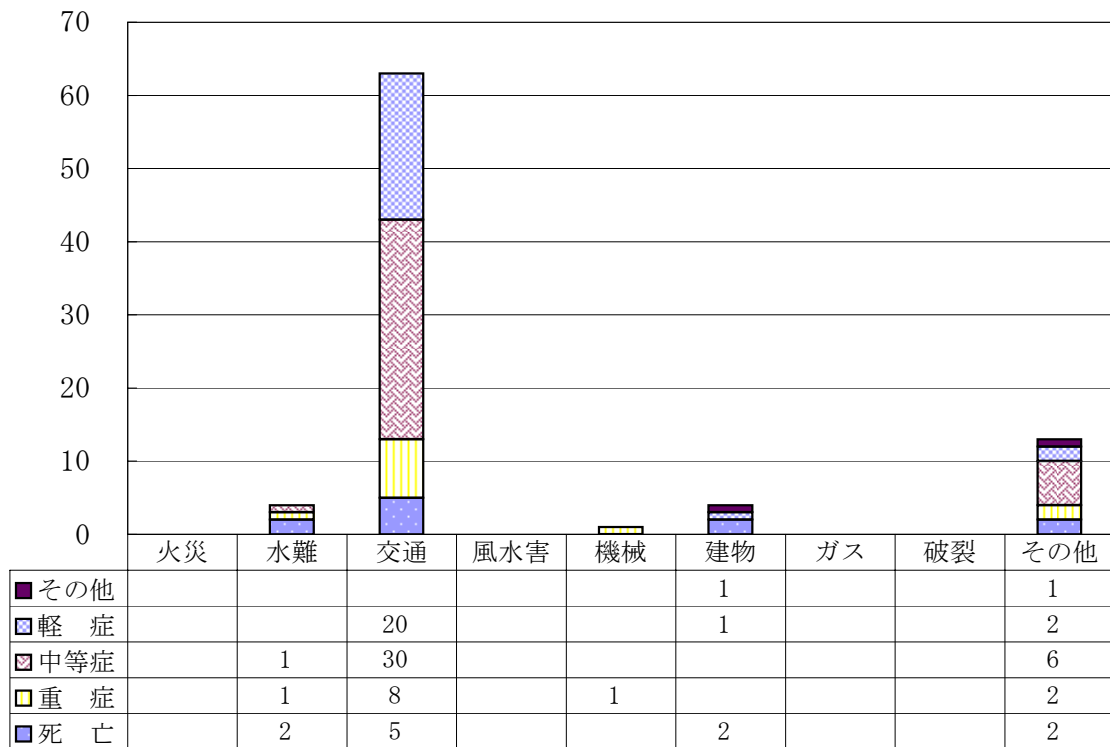
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	32	4	54	0	1	4	0	0	13	108

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

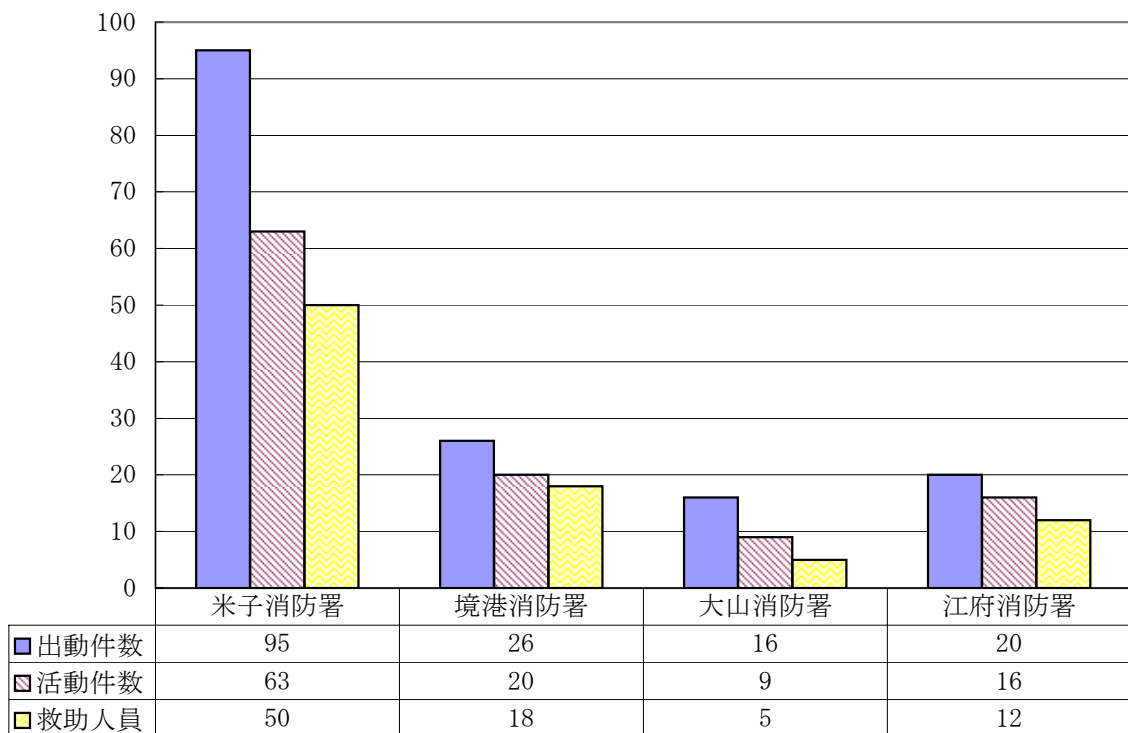


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員	0	4	63	0	1	4	0	0	13	85

別図Ⅲ-4 救助事故の死傷程度



別図Ⅲ-5 署別救助活動状況



IV. 119番着信状況

(平成19年1月1日～12月31日)

1 概況

平成19年中の119番通報は、総着信件数で12,163件ありました。(昨年と比べると537件(4%)減であった。)1ヶ月平均では約1,014件、1日平均では約34件の着信となります。

通報内容としては、救急通報が最も多く8,488件(70%)でした。火災通報は222件(2%)で去年より125件少なくなっています。その他の通報としては、間違いが927件(8%)、通報訓練などの通報が1,186件(9%)、休日・夜間などに病院に関する問い合わせ等が1,063件(8%)となっており、いたずらと思われるものも100件(1%)ありました。

(別表Ⅳ-1、別図Ⅳ-1 参照)

2 月別の着信状況

月別での平均着信件数は、1,014件で、最も多かったのは10月の1,170件、最も少なかったのは7月の901件です。火災通報の月平均着信件数は月平均約18件、最も多かったのは4月の47件、最も少なかったのは8月の7件でした。救急通報の月平均着信件数は707件で、最も多かったのは3月の824件、最も少なかったのは4月の631件でした。

(別表Ⅳ-2、別図Ⅳ-2 参照)

3 時間帯別119番通報の着信状況

時間帯別119番通報の着信件数は、活動時間帯(午前9時頃～午後9時)に大半を占めていて、睡眠時間帯(午後10時～午前6時)では午前5時まで時間の経過とともに件数が減少しています。

(別図Ⅳ-4 参照)

4 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は3,116件で、全着信件数の26%でした。携帯電話で119番通報されますと、必ずしも電話をされた地区を管轄する消防に、接続されるとは限りません。管轄地区以外からの通報は、その地区を管轄する消防本部に電話を転送し対応してもらいます。またその逆もあります。これを転送処理件数として別表としています。他の消防機関との転送処理件数は63件あり、松江消防が27件と最も多く、次いで安来消防が24件、中部消防が6件となっています。

(別表Ⅳ-3、別表Ⅳ-5、別表Ⅳ-6、別図Ⅳ-3 参照)

5 電話種別による通報状況

平成１０年１０月から運用開始した携帯電話からの１１９番着信件数は毎年増加していましたが、一昨年頃より月に２６０件程度で横ばい傾向です。１７年７月より一部のＩＰ電話からの１１９番通報ができるようになりました。１７年中は６７件、１８年中は３１０件、１９年中は５６５件で、増加傾向にあります。

(別表Ⅳ－３、別図Ⅳ－３参照)

別表Ⅳ－１ １１９番着信件数の推移

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
平成１５年	244	7, 677	－	132	1, 070	362	1, 185	1, 554	12, 224
平成１６年	308	7, 879	－	130	1, 147	514	1, 057	1, 745	12, 780
平成１７年	401	8, 554	－	140	1, 137	259	962	1, 635	13, 088
平成１８年	347	8, 847	73	104	1, 200	197	894	1, 038	12, 700
平成１９年	222	8, 488	71	106	1, 063	100	927	1, 186	12, 163

別表Ⅳ－２ 月別１１９番着信状況

	火 災	救 急	救 助	警 戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合 計
１ 月	13	746	4	6	107	12	64	54	1, 006
２ 月	13	696	6	11	62	12	71	75	946
３ 月	38	824	2	6	81	5	90	117	1, 163
４ 月	47	631	9	9	84	11	71	108	970
５ 月	30	703	5	7	98	4	92	81	1, 020
６ 月	11	653	8	11	76	4	68	91	922
７ 月	12	672	7	12	70	10	68	50	901
８ 月	7	751	6	7	105	12	81	49	1, 018
９ 月	16	652	3	8	96	4	79	72	930
１０ 月	13	748	8	10	90	9	70	222	1, 170
１１ 月	8	659	10	10	108	10	94	146	1, 045
１２ 月	14	753	3	9	86	7	79	121	1, 072
合 計	222	8, 488	71	106	1, 063	100	927	1, 186	12, 163
月平均	18	707	6	9	89	8	77	99	1, 014

別表Ⅳ－３ 電話種別による１１９番着信件数の推移

	固定電話からの 着信件数	携帯電話からの 着信件数	I P 電 話	合 計
平成１５年	９，３５１	２，８７３		１２，２２４
平成１６年	９，４２５	３，３５５		１２，７８０
平成１７年	９，７６７	３，３２１	６７	１２，６４６
平成１８年	９，２５８	３，１３２	３１０	１２，７００
平成１９年	８，４８２	３，１１６	５６５	１２，１６３

別表Ⅳ－４ 電話種別毎の通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	悪戯	間違い	訓練等	合計
１１９固定	９０	６，２４７	２５	４９	５３４	５２	５２０	９６５	８，４８２
１１９携帯	９９	１，８８８	４５	５５	４７６	４６	３６８	１３９	３，１１６
１１９ I P	３３	３５３	１	２	５３	２	３９	８２	５６５
総合計	２２２	８，４８８	７１	１０６	１，０６３	１００	９２７	１，１８６	１２，１６３

別表Ⅳ－５ 携帯電話からの着信状況

西部消防圏域内の災害などの着信件数			他の消防機関に 転送をした件数
直接通報を 受けた件数	他の消防機関から 転送受信した件数	総着信件数	３７
３，０９０	２６	３，１１６	

別表Ⅳ－ 6

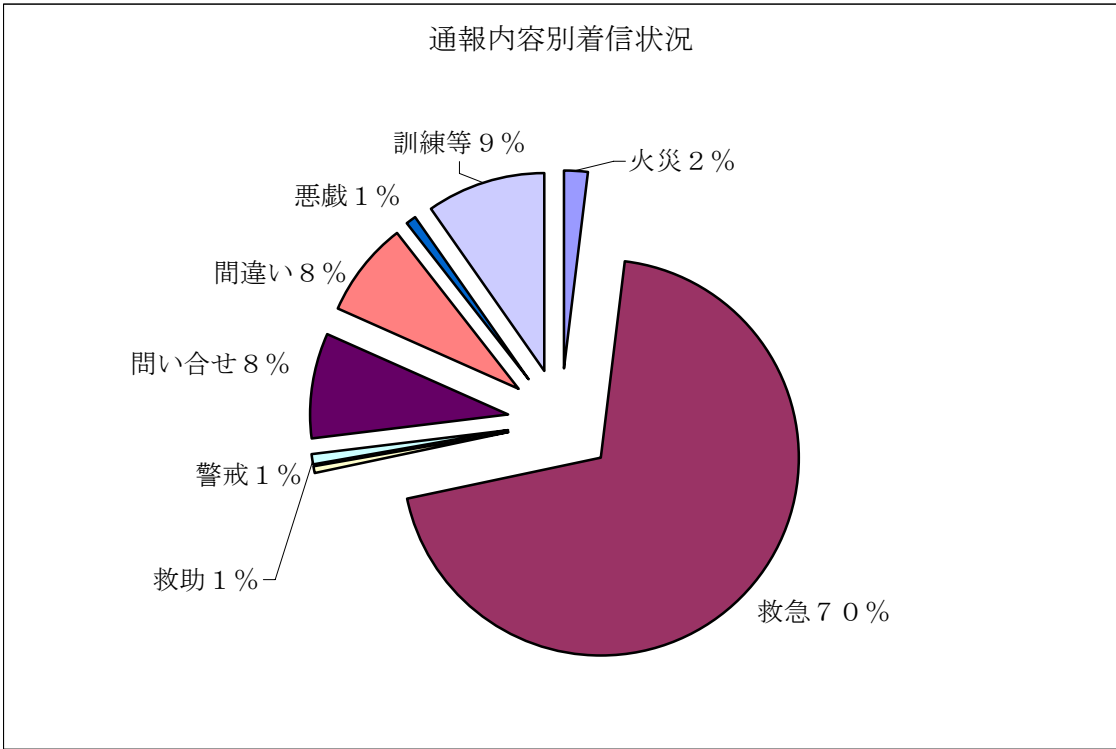
携帯電話の消防機関別転送状況

他の消防機関から転送を受信した件数				
消防	火 災	救 急	その他	合 計
松 江		4		4
安 来		1 4	1	1 5
雲 南				
東 部		2		2
中 部		4		4
新 見				
真 庭		1		1
津 山				
備 北				
合 計		2 5	1	2 6

他の消防機関に転送した件数				
消防	火 災	救 急	その他	合 計
松 江	1	2 1	1	2 3
安 来		9		9
雲 南				
東 部		1		1
中 部		2		2
新 見		1		1
真 庭		1		1
津 山				
備 北				
合 計	1	3 5	1	3 7

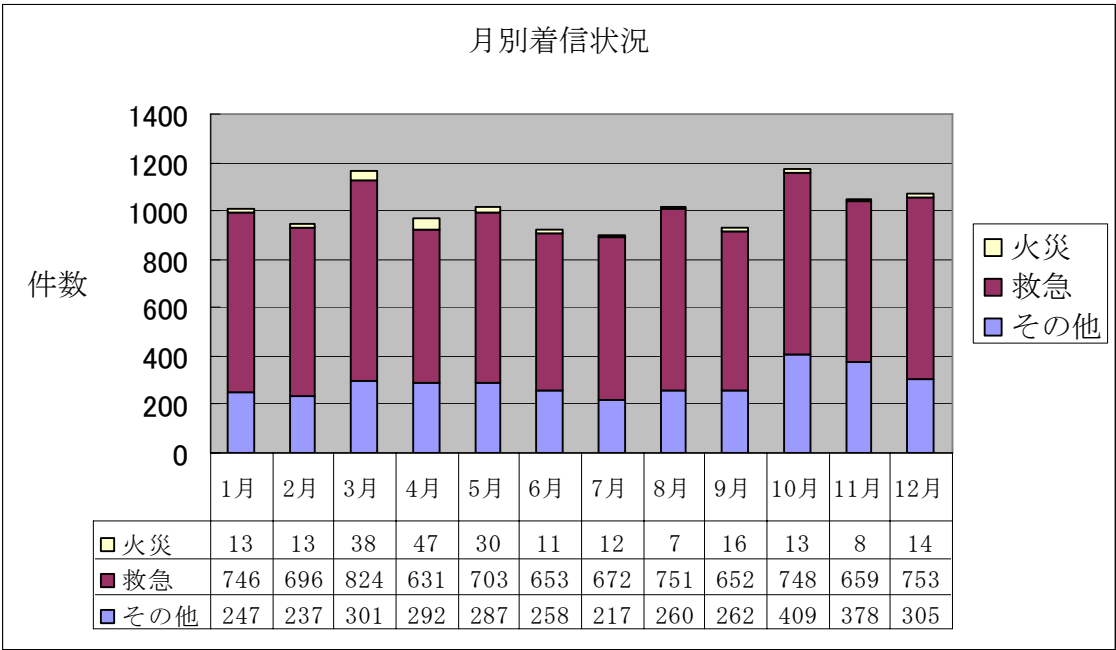
別図Ⅳ－ 1

通報内容別着信状況



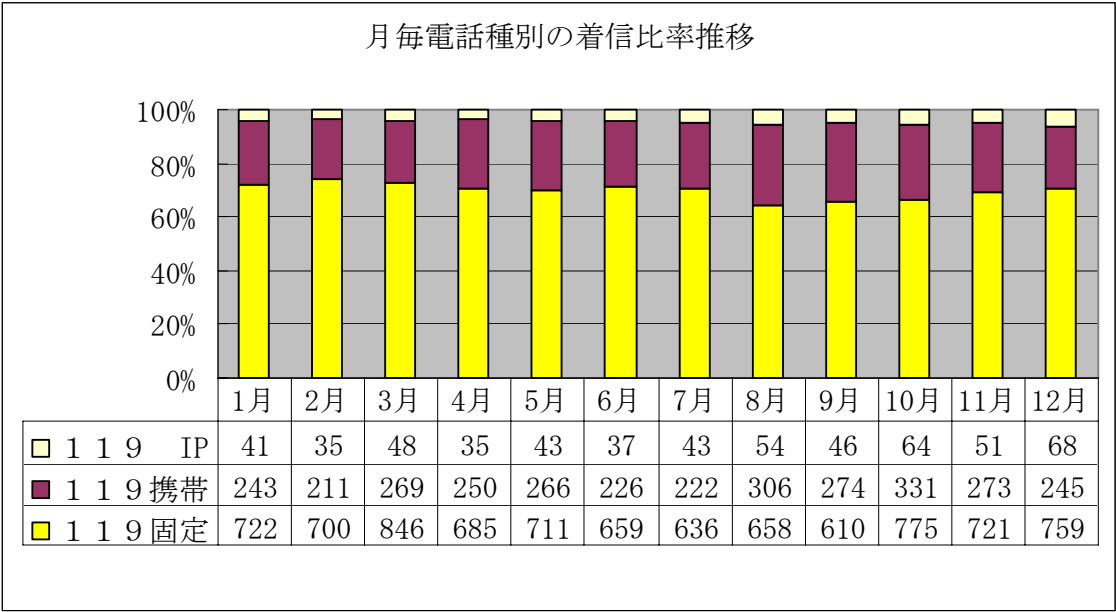
別図Ⅳ－ 2

月別着信状況



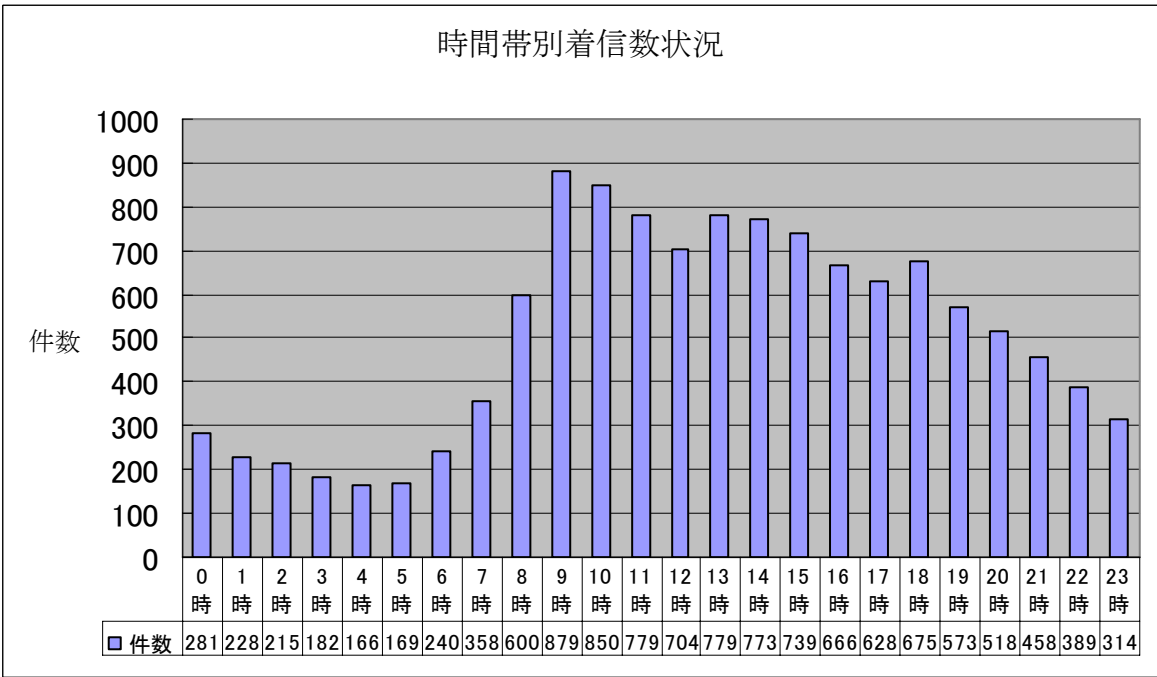
別図Ⅳ－ 3

電話種別毎の着信比率推移

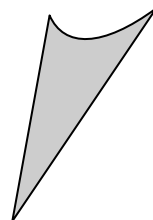


別図Ⅳ－ 4

時間帯別着信件数の推移



《メ モ》



火は見てる あなたが離れる その時を

平成19年度全国統一防火標語

火災情報テレホンガイド 0859-22-0119

防火・救急に関するご相談・お問い合わせ

お気軽に最寄りの消防署・出張所へどうぞ

名 称	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
消 防 局	米子市両三柳5452番地	683-0853	0859-35-1951
米子消防署	米子市富士見町1丁目103番地1	683-0055	0859-39-0251
米子消防署皆生出張所	米子市皆生5丁目8番5号	683-0003	0859-39-0253
米子消防署南部出張所	西伯郡南部町清水川3番地1	683-0321	0859-39-6003
米子消防署伯耆出張所	西伯郡伯耆町溝口20番地4	689-4201	0859-39-9001
境港消防署	境港市中野町2116番地	684-0041	0859-47-0119
境港消防署弓浜出張所	米子市大篠津町2913番地1	683-0101	0859-48-2005
大山消防署	西伯郡大山町末吉403番地2	689-3331	0859-39-5002
大山消防署中山出張所	西伯郡大山町長野880番地3	689-3132	0858-49-3001
江府消防署	日野郡江府町武庫1390番地3	689-4411	0859-77-2001
江府消防署生山出張所	日野郡日南町生山349番地1	689-5211	0859-77-1001

※本概況に関するお問い合わせは下記にお願いします。

火災…………… 予防課予防係	0859-35-1954
救急救助…………… 警防課救急救助係	0859-35-1959
119番着信状況…指令課指令係	0859-35-1960

平成20年1月発行

〒683-0853 米子市両三柳5452番地
鳥取県西部広域行政管理組合消防局
TEL 0859-35-1951(代)